

宇部市総合計画審議会（第9回）議事録

日 時 平成21年10月27日（火）9：30～11：30

場 所 宇部市役所第2・3・4委員会室

出席者

（委員）

倉重龍昌 光井一彦 玉重彰彦 横屋幸児 有田信二郎
藤重清美 篠田佳代子 杉永美佐子 三浦房紀 松崎益徳
千葉泰久 脇和也 北野洋子 三原節子

（事務局）

総合政策部長 芥川貴久爾 同部次長 小川 徹
新総合計画策定室長 廣中昭久 同室長補佐 河村真治 同室主査 篠原 功
総合政策課主任 福永俊明 同課員 小林郁美

（コンサルタント：ランドブレイン株式会社）

田中元清 石村壽浩

（宇部市新総合計画策定本部専門部会正副部会長）

環境部次長 今川利夫 健康福祉部次長 岡田利三
経済部次長 部坂博美 教育次長 杉本繁雄
総務部次長 阿部和生

欠席者

（委員）

田辺龍夫 河野直行 中野朋子 黒高満義 中野リエ子
西村伸子

一般傍聴者

1人

1 会長あいさつ

（事務局） 本日は、御多忙のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
ただ今から、宇部市総合計画審議会の第9回会議を始めます。

それでは、初めに、光井会長からごあいさつをお願いします。

（会長） こんにちは。本日は最終案をまとめて、答申ができるようにしたいと考えていますのでよろしくをお願いします。

昨日、鳩山首相が国会で初めて演説をされました。日本の国がどちらの方向に進むのか、いまだにはっきりしない昨今です。

宇部市においては、新市長の下、着実にいろいろなことをされているというこ

とが新聞にも多々出ています。皆さんも関心を持って御覧になっていることと思います。

我々が取り組んできた新総合計画は、まさにこれから12年間の宇部市の方向性を示す内容のもので、これを市長に答申し、議会の承認を得て実行していくという道筋になると思います。

本日、答申書の案が出ていますが、これを正式なものにして、答申することになりますので審議をよろしくをお願いします。

ところで、今週は宇部まつりが行われます。観光コンベンション協会も準備がお忙しい中、審議会に出席いただきありがとうございます。商工会議所も約2,300人の仮装パレードを準備しています、天気だけが心配ですが、大いに盛り上げて、こういう時こそ元気を出していきたいと思います。

また、我々のメンバーである松崎委員の山口大学学長への就任が内定しました。松崎委員からはいろいろな提言をいただいております。我々としても委員を支援しますので、ぜひ学校関係の取組を推進していただきたいと思います。

答申案の中に、これからの宇部市の方向性として、工業都市と学園都市という二つの大きな考えを盛り込んでいます。松崎委員を学長に送るに際して、我々からの最もふさわしいお祝いになろうかと思えます。松崎委員、これからもよろしくをお願いします。

それでは、審議に入りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(事務局) ありがとうございます。では早速議事に入りたいと思います。まず、本日は委員の半数以上の御出席をいただいておりますので、本会議は成立していることを報告します。会議の議長は、総合計画審議会条例第4条第1項の規定により、会長にお願いしたいと思えますので、よろしくをお願いします。

2 議 事

(会 長) それでは、議事に入ります。本日の会議も公開とし、議事録も後日、市のホームページ上で公開することにしたと思います。

それでは、議事の1番目に入ります。

「市民意見への対応及び答申内容の確定について」、まずは事務局から説明をお願いします。

(1) 市民意見への対応及び答申内容の確定について

(事務局) それでは、まず資料1により説明します。

まず、市民意見として資料1のとおり提出があり、1～6までは表現上の提案で、7については、意見として提案されたものです。

そこで、資料にある考え方にに基づき、右端の欄に記入した対応としてはどうか

という案を示しています。

この対応の区別については、表の下の欄外にあるように、まず は「意見の方向に従い、修正又は追加するもの」、 は「意見の趣旨や考え方は既に記載しているもの」として修正はしないもの、また は意見を参考としてお伺いして同じく修正はしないもの、としています。

それでは、順に説明します。

まず、 1 ですが、これは第 1 部の「策定の背景」の部分で、「市制施行100周年に向け、『活力と魅力にあふれ、人や地域が元気になるまち』として発展するための指針となるよう」という表現は、「市制施行100周年に向け、『活力と魅力にあふれ、人や地域が元気になるまちづくり』の指針となるよう」とした方が分かりやすいという意見です。

これについては、「審議会の考え方」の欄にあるとおり、「100周年に向け、『(中略)まち』として発展する」という言葉のつながりにしていることから、原案どおりとすることとして、対応は にしています。

次に 2 ですが、これは同じ第 1 部中の「策定に当たっての取組方針」の部分で「まちづくりへの新たな取組」という視点が具体的に見えないという指摘です。

これについては、その視点を具体化した個々の取組は、基本構想案の第 7 章にまちづくりのキーワードごとにまとめており、また、意見の中にあるCO₂の削減率などの具体的な目標までは設定しなかったことから、対応は としています。

次に 3 ですが、これは基本構想案の第 3 章の主要課題の整理の部分についての意見です。

まず、環境関連で「自転車、公共交通を優先したまちづくりへの取組」という課題を追加してはどうかという意見です。

これについては、審議会においても御指摘の点は議論し、環境面も大切だが、現在の車社会の転換も難しいと判断し、「自転車や公共交通の利用を促進する」という方向で取り組むことにしたことから、「優先した」とまでは表現せず、原案どおりとすることとして、対応は にしています。

次に、地域ブランド化関連で「地域資産・文化の発掘・PR」という課題を追加してはどうかという意見です。

これについては、地域ブランド化の観点では、審議会としては特に「常盤公園と彫刻」のPRが必要ということで対象をピックアップして整理しており、御指摘の「地域資産」については、市民力において、「地域資源、歴史文化の継承」を主要課題として挙げていますので、市民意見を参考に、この課題を「地域資源、歴史文化の発掘と継承」と修正することとし、対応は としています。

次に 4 ですが、これは第 4 章の「今後のまちづくりに向けたコンセプト」の部分の表現のうち、「そして「まちが元気」になることをコンセプトとして」という部分を削った方が分かりやすいという指摘です。

これについては、「ひとの元気」が「地域の元気」に、そして「まちの元気」に広がりをもってつながっていくことをコンセプトとしていることを強調する一方、御指摘のとおり「元気」という言葉が重複し過ぎていると考えられることが

ら、結びの部分を「誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまちを目指します。」と修正することとし、対応は としてしています。

次に 5 ですが、これは第6章の「求める都市像」の副題部分の表現のうち、「協働」を削るべきという意見です。

これについては、「協働」はまちづくりを進める上で、重要な要素であり、「協働のまち」というフレーズは意味のあるものであることから、原案どおりとすることとして、対応は にしています。

次に 6 ですが、これは同じく第6章の「分野別目標」の部分の各分野の目標の表現に対する意見で、目標に意思を表すため、それぞれ「まちを目指します。」とするとともに、目標の表現も資料のとおり修正したらという意見であります。

これについては、各分野の目標として、どのようなまちを目指すかという視点で、各分科会で目指す「まちの姿」を掲げたものであり、また、それに続いて、本文中で、その目標に向かって取り組む優先度の高い戦略を選択し、理想とするまちを「目指す」という意思を表現していることから、分科会での議論を尊重し、原案どおりとすることとして、対応は にしています。

最後に 7 ですが、これは旧宇部市と旧楠町との合併時に策定された「新市建設計画」を、基本構想案の中でどのように扱うのかを明記すべきではないかという意見です。

これについては、御指摘どおり「新市建設計画」は平成26年度までを計画期間としており、その内容は新総合計画においても配慮すべきものと考え、資料2に示した案のように修正することとし、対応は としてしています。

それでは、資料2の2頁をお開きください。第1部の「策定に当たっての取組方針」の部分で、方針の一つとして、新市建設計画との整合性についても配慮したという旨をなお書きで追記しています。

次に、21頁をお開きください。新市建設計画との整合性について、具体的には、ここ第7章の「まちづくりのために」の部分で、新市建設計画に掲げた各種事業の進捗にも配慮することとし、地域における取組により地域の元気を創出し、全市域の元気につながる取組を進めるという趣旨で追記しています。

このたびの意見募集により寄せられた意見の内容とその対応の考え方については以上です。

対応の結論が今の説明どおりでよいか、審議会の考え方とその表現が資料どおりでよいかについて御審議いただければと思います。よろしくお願いたします。

(会 長) 今事務局から説明がありました。これについて、皆さんの意見をお聞きしたいと思えます。

(委 員) 事務局の案で特に異存はありません。特に第6章に「目指します。」という言葉を入れるかについては、簡潔な文章の方がよいと思えます。

(委 員) 21頁の修正案ですが、「各種事業の進捗にも配慮」するとなっておりますが、自

分であれば多分「各種事業にも配慮」と表現すると思います。この「進捗」という言葉に何か特別な意味があるのですか。

(事務局) 御指摘のとおり、少し違和感を覚える表現かもしれません。

新市建設計画は、平成16年11月に旧宇部市と旧楠町が合併した際に、これからどのような新市を作っていくかを具体的に明らかにしたのが新市建設計画です。現行の第三次総合計画の後期基本計画も、新市建設計画とほぼ同じ内容で作っています。

新市建設計画は平成17年度から26年度までの10年間の計画であり、21年度で前期の5年間で終了し、22年度から26年度までの後期の5年間で残っています。

計画の中にいろいろな事業を計上していますが、事業が既に終了したもの、廃止となったもの、進捗の途中であるもの、未着手のもの、いろいろな状況にあります。このいろいろな状況を配慮し、ひとつひとつの事業を見ていくという意味で、「進捗」という言葉をあえて入れたものです。

(委員) よく分かりました。

(会長) ほかに意見はありませんか。

(意見なし)

(会長) 基本構想全体については、前回議論して、委員の合意を得て市民に公開したものです。市民から基本的なところについて指摘があれば、一から審議をし直す必要があるかもしれないと心配していたのですが、文章の言い回しは別として、大筋では理解してもらえたのではないかと思います。

それでは一通り協議が終わりましたので、そのほか全体を通じて何か意見はありませんか。

(意見なし)

(会長) 意見が無いようなので、本日の案をもって答申内容を確定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

(会長) ありがとうございます。それでは、後日、審議会を代表して、正副会長が答申書を市長に手渡したいと思いますが、御了承いただけますか。

(異議なし)

(会 長) ありがとうございます。それでは、後日、私と三浦副会長で市長に答申したい
と思います。

次に、議事の2番目、「サブタイトル・イラストの審査について」に移ります。
事務局から説明をお願いします。

(2) サブタイトル・イラストの選考について

(事 務 局) それでは、サブタイトルとイラストの応募結果について資料3で説明します。
まず、「サブタイトル」については、資料にありますように、6人の方から13
通りの案の提案がありました。

また、「イラスト」については、2人の方から2案の提案がありました。

選考方法については、会長とも事前に協議して、委員全員による投票方式によ
り絞り込んだ上で、合議により候補作品を決定するという手法にすることとして、
資料送付の際に投票用紙も併せて皆様へ送付したところです。

それでは、その集計結果を配付します。

(集計結果用紙を配布)

(事 務 局) 本日欠席の委員さんを含め、投票いただきましたのは、計17人の方でした。

まず、サブタイトルですが、投票の結果、最も多く票を獲得したものは、3
の「会ってみたい12年後の元気な宇部に 宇部元気プロジェクト」で9票、第二
位は 2の「うべみらいビジョン」で5票、第三位は 1の「『ありがとう』が
輝くまちをめざして」と 4の「100周年 新・宇部づくりプラン」で4票という
結果となりました。

また、3については、「「宇部元気プラン」としたらどうか。」、3と
4について、「合成して、「100周年へ 宇部元気プロジェクト」としたらどうか。」
という意見もありました。

また、「イラスト」については、1が最多票を獲得しました。

サブタイトルについても、イラスト作品についても、この結果どおりでよいか、
御審査いただければと思います。

説明は、以上です。

(会 長) 大正10年、1921年から起算すると、計画の目標年次である12年後の平成33年、
2021年がちょうど100周年に当たるわけですね。

(事 務 局) はい。100周年に向けたまちづくりという位置付けになります。

(会 長) 皆さんの意見が集約できればそれでいきたいと思います。意見がありましたら
お願いします。

- (委 員) 私も、 3にしたのですが、引っかけたのは「12年後」という言葉で、来年になったら11年後なので、ずっと「12年後」というのはどうかと。それで、 4と併せて「100周年へ」という言葉を付けることを提案しました。
- (会 長) 確かに、いつまで経っても「12年後」では終わりがいいですね。
- (委 員) 3について、「プロジェクト」だとやや小さい印象があり、「宇部元気プラン」としたらどうか。」という意見を付けました。実行計画との関係もどうなのかなと思ひまして。
ただ、応募された作品の言葉を変えるのもどうかと、今迷っているところです。
- (会 長) 確かに、「プロジェクト」というと具体的な取組になりますので、総合計画という位置付けからは「プラン」の方がよいかもかもしれません。
- (委 員) プランにしる、プロジェクトにしても具体的過ぎるような気がします。
総合計画は、今後4年ごとの実行計画に落とし込んでいくのですが、その根元にいつもあるものになるので、「ふるさとネットUBE」のようにごろがよくてあまり具体的でないものの方がよいような気がします。
今支持が高い 3や 4を生かすのであれば、「宇部元気プラン100」のように、ごろがよくて、簡単で、100とは何なのかなと疑問を抱かせるようなものがよいのかなと思っています。
- (会 長) 我々はこれまで議論してきましたから「12年後」が指す意味も分かるのですが、一般の市民には分かりにくいかもしれないので、100周年のような言葉の方がよいのかもしれません。
- (委 員) 20~30年前のことになりますが、会社の製品の名前を決める際には若い感性が必要だということで、50歳代以上は審査員にもなってはいけないという話になったことがあります。今回は若い人の応募もあったのですか。
- (事 務 局) はい。ありました。
- (委 員) 私も 3に投票したのですが、確かに「12年後」については御指摘のとおりなので、 3を「会ってみたい未来の宇部に 宇部元気プロジェクト」としたらどうでしょうか。「プラン」と「プロジェクト」では、「プロジェクト」の方がごろがよいような気がします。
また、イラストについては、私も 1に投票したのですが、このままでは宇部がどこにも出でこないの、イラストの足元に「UBE」という言葉を入れたらどうでしょうか。宇部が22年から23年に飛翔しているというイメージになると思

います。ただし、作者の許可が得られればですが。

(会 長) 作品の修正はできることになっていましたね。

(事務局) はい。募集の要件としては、イラストの著作権は当方に帰属することとして、多少の作品の加工の可能性もあることにも触れています。

(委 員) サブタイトルも修正できるのですか。

(事務局) サブタイトルについては、当方が修正を加えられるという条件は示していませんでした。ですから、本来は応募どおりの形が望ましいのですが、審議会の審議の状況をお伝えして、作者の納得も得られれば、修正した上での採用という方法も取れないことはないと思います。

(会 長) 「会ってみたい未来の宇部に」というのはよいかもしれませんね。

(委 員) 確かに、「元気」については、ほかでも触れているので、単に「会ってみたい未来の宇部に」だけでもよいのかもしれません。

(委 員) 「12年後」は「未来」ですから、先ほどのような説明をすれば、作者にも理解してもらえるのではないのでしょうか。

(会 長) では、「会ってみたい未来の宇部に 宇部元気プロジェクト」でよいですか。

(委 員) 簡潔に、というのであれば、「会ってみたい未来の宇部に」だけでもよいかもしれません。

(会 長) では、事務局から作者に確認を取ってもらってよろしいですか。

(事務局) はい。それでは作者に確認を取りたいと思います。「会ってみたい未来の宇部に」だけでもよいのではという意見もありましたが、最終的には「会ってみたい未来の宇部に 宇部元気プロジェクト」ということでよろしいですか。

また「未来」については、漢字で「未来」とひらかなで「みらい」とどちらにしましょうか。

(委 員) 「みたい」と「みらい」と続くと分かりにくいかもしれません。

(会 長) 漢字の方がよさそうですね。

(委 員) 「未来の宇部に」「宇部元気プロジェクト」と、「宇部」が続くので、前の「宇

部」を「UBE」に変えたらどうでしょうか。

(会 長) やはり、ここはタイトルですから、先ほどのイラストと違って本来の「宇部」の方がよいと思います。

(委 員) イラストについて、先ほど足元に「UBE」と付けたらどうかという意見がありました。私は今のままの方がよいと思います。

作者には「飛翔」と併せ「ソフトランディング」という意図があり、そのために丸い足になっていると思います。足元に「UBE」を付けると「ソフトランディング」という作者の意図が薄れ、「飛翔」だけになってしまう気がします。

(会 長) 「UBE」が入っていないとどこのイラストか分からないと思いますので、どこかに「UBE」が入っていた方がよいと思いますが。

(委 員) 「UBE」を入れてもらうよう、作者に依頼したらどうでしょうか。

(委 員) そうですね。最もふさわしい位置に入れていただけるのではないのでしょうか。

(会 長) それでは事務局から、宇部ということが分かるように、どこかに「UBE」を入れてもらえるよう交渉してみてもらえますか。

(事 務 局) はい。分かりました。どこに挿入するかは作者に一任したいと思います。

(会 長) それでは、サブタイトルとイラストについては、以上としたいと思います。

(3) その他

(会 長) 本日予定していた審議は終了しましたので、最後に各人からこれまでの審議を振り返って御意見をいただきたいと思います。

(委 員) さきほどのイラストは計画書の表紙に使うことになるのですか。

(事 務 局) 今回のイラストは審議会から市長に提案いただき、まずは、計画書の表紙や中の挿絵に使い、そのほかの使い方も検討したいと思っています。

(委 員) 初めてこのイラストを見ると、なぜ手が「22」になっているかなど、その意味が分かりにくいと思いますので、ほかのところでのこのイラストを使用する際には、補足説明をつけた方がよいと思います。

会議を振り返っては、今回さまざまな分野の皆さんと御一緒し、大変勉強にな

り視野が広がりました。また、任期中に出産、子育てを経験し、今までにない分野に興味が増えました。

今後は、子育てがあるから活動ができないということがないように、その経験を生かしていろいろな活動をしていきたいと思います。このような立場だからこそできる活動や提案もあると思います。ありがとうございました。

(委員) いろいろな分野の人がおられ、それぞれの分野についてよく御存知でしたので、大変勉強になりました。今後の活動に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

(委員) 二つあります。

一つ目はパブリック・コメントの件です。今回は2人で7件と聞いていますが、非常に少ないという印象です。もう少し関心を持ってもらいたいと思います。

しかし、仮に私が逆の立場の場合であれば、やはり何も言っていないかもしれません。もっともっと、市民にアピールや宣伝をしていく必要性を強く感じました。数十人の規模で意見が出てくるような宇部市でないといけないと思います。いくら、元気、元気と言っても、関心が無ければ、何にもならないと思います。

二つ目は障害福祉の件です。答申書の中に障害福祉についていろいろな文言が入ることになり、ありがたく思っています。

文言が入ったからには、私もひとりの当事者として頑張っていきたいと思います。特に地域ブランドの中に「障害者就労の先進都市を目指して」という非常に大きなバブルを揚げさせていただきました。これが実現できるように、私自身も努力していきたいと思います。

宇部市も市長が変わられて、新しい市長は、ワークステーションを市役所内に置かれると聞いています。障害を持った方々が働くということが、もっともっと表に出てくるようになるように、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

それから、私もいろいろな人の意見を聞くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

(委員) 最初は、行政がある程度作成したたたき台を出して、それを審査していくのだと思っていました。しかし、第1回の際に会長が言われたように、いわゆるゼロからのスタートとなり、分科会、全体会、起草委員会と延べ30回を超える会議をしたのではないかと思います。皆さんの熱意に感心しました。

私は、産業振興分科会に入りました。自分としては、宇部の場合は第二次産業が中心に表現していけばよいのではないかと考えていたのですが、分科会の中の議論により、第一次産業を素材として、第二次、第三次産業が連携していくという形になりました。第一次産業を再認識することができ、大変よかったと思います。

また、構想中に「コンベンション」という言葉が無いという御指摘をいただき、それを構想の中にも入れることになり、ありがたく思います。

これから実行計画を策定されることと思います。審議会のメンバーとして関心

を持って注目していきたいと思ひますし、もし求められれば、支援もしていきたいと思ひます。ありがとうございました。

(委員) 私は、唯一旧楠地区から参加し、教育文化分科会の委員長も務めさせていただきました。その二点で自分の役割が果たせただろうかと反省しています。

なお、合併後かなりの期間が過ぎましたが、今回も含めいろいろな面で、旧楠地区に対する配慮を常々感じています。

また、私は楽器を作る仕事をしており、普段は作業服で作業をしており、会議のたびにあわてて服を着替えて出席していたのですが、今日で終了し正直ほっとしています。ありがとうございました。

(委員) 私は、これまでも、いろいろな計画を作る立場にありましたが、それは、先ほどお話にありましたように、行政がある程度作って、それを委員の皆さんに審議していただくという形でした。

今回、このようなゼロからのスタートというやり方の審議に参加しましたので、今後、もしまた計画づくりにかかわることがあれば、今回の経験を生かしたいと思ひます。

また、これから実行計画を作り、行財政が厳しい中や先行きが見えない中で、施策を行っていくに当たっては、いろいろと大変な面もあると思ひます。県としても、できるだけ支援をしていきたいと思ひますし、私にもできることがあれば支援をしていきたいと思ひます。大変お世話になりました。

(委員) 私は前任者からの引継ぎで第6回目から参加しました。分科会の後でしたので、とてもたくさんの資料をいただき、面食らった記憶があります。

私は、たまたま自分の子供の学校の役員となり、市の連合会の役員となり、参加することになりました。

今の保護者にはなかなか行事に参加してもらうことが難しく苦労します。強制にしないと出席してもらえない状況にあります。宇部市のことを考える機会もありません。

今回このような宇部市のことを考える機会を得て、私自身大変勉強になりました。これからは、一般保護者に対してもこのような意識向上に努めていきたいと思ひます。ありがとうございました。

(委員) 私は、九州出身で1968年に宇部に来て以来、宇部でもう41年を過ごしており、完全に宇部の人間になりました。

土曜市の銀天街のにぎわい、井筒屋の屋上の立派なピアガーデン、駅前大和等、宇部に来た当時のことが思い起こされます。中央大和の屋上の遊園地で子供たちを遊ばせた記憶もあります。

あの当時の宇部のにぎわいがどうして今はないのだろうと寂しい思いがします。ぜひ元気な宇部になってほしい、まちに人が出てくる宇部にするにはどうしたら

よいかということ、ずっと考えてきました。このような会に参加することになり、それが実現できるようになればという気がしています。

宇部には、工学部、医学部等いろいろな機関を併せて、理工系の知識が豊富なまちです。理工系のこれだけの英知が集まった人口 17 万人のまちは余りありません。これを生かさない手はないと思います。大学や短大等、これらをうまくまとめたひとつのコンソーシアムのようなものを作り、医工連携で物がつくればと思っています。

文部科学省から 5 年間で 25 億円の補助金をもらい、知的クラスター事業を行い、比較的成功のうちに終わりました。医学部、工学部、農学部、理学部、県、地元企業が加わって、製品を作りました。私もひとつのプロジェクトのチームリーダーとしてかかわりました。このようなプランができるようなまちになればと思います。新しい市長にもぜひ期待したいと思います。

山口大学としても、医工連携、また理学部、農学部も加え、宇部市にプロジェクトが組めればと考えています。実現できるかどうかは分かりませんが、県や市と協力して外部資金を集めてプロジェクトが組めるよう、大きな夢を持って力いっぱい頑張りたいと思います。

ぜひ、昔の元気のいい宇部を取り戻しましょう。

(委 員) 基本構想案として、ベースとして考えられるものがきちんとできたと思います。ただ、これを次にどう生かすのかが問題だと思います。前回 P D C A の話も出たようですが、実行計画も 4 年ごとの見直しでよいのかという感じもしています。

今、企業では、不景気からの景気の回復については、ゆっくりと回復する U 字型、急に回復する V 字型、回復と後退を繰り返す W 字型等、いろいろな見方がありますが、霧が晴れたらパラダイムシフトが起こるということでは一致しています。

例えば、車ならば、今は多機能でぜいたくな車を作っていますが、これからはいかにコストを下げるかが問題であり、また用途に応じて変わってきます。私たちが提供する材料を変えていこうとしています。このように世の中はものすごく動こうとしています。政権交代もありました。

この基本構想も、車がすべて電気自動車になるような時代になれば、今描いている構想や考え方が変化してくると思います。せっかくベースができたわけですから、うまくチェックをしながら、少しずつ修正していきながら、次の時代に対応していかなければならないと思います。

例えば、基本構想で環境問題について取り上げていますが、地球の温暖化問題が地域の問題からグローバルな問題になり、世界的に国同士で綱引きが行われているような状況の中で、我々はしたたかに生きていく必要があるわけで、どのようにしていくのかというものを織り込んでいく必要があります。

また、私が非常に気になっているのが少子化の問題です。どこも人口が減るのははっきりしています。

日本の人口は、江戸時代が 3,500 万人、明治・大正と 7,000 万人～8,000 万人

に増え、戦争で一時減りましたが、現在は1億2,800万になっています。これまで、ずっと増え続けてきたため、今は増えてきたものを維持しようとしています。それはもう無理があるのです。

早めに、減っていくことに対してこのまちはどのような対応を取っていくのかを、次に考えておく必要があります。今回はそこまでは議論できなかったのですが、そういう全体の流れがあります。例えば、フィンランドは日本と同じ広さの国土で、大阪府程度の人口です。

そのためには、「自由共産主義」とでも言うようなものが必要になるのではないかと思います。

一時言われたことに、月にロケットを打ち込むのと、東京八重洲口と丸の内口に橋を架けるのとでは、月に行く方がやさしいと言われたことがあります。人間が絡むと話がまとまらないからです。

前回、医学部と工学部を結ぶ話も出るなど宇部市でもいろいろな話がありますが、全体の構想の中で、どこかに立ち退きをお願いせざるを得ないような事態も起こります。

例えば、成田では、何人かの人頑張ったために、比重が羽田に移ろうとしています。本来であれば、早くに成田と東京をつなぐラインができなければいけなかったはずですが。

少し長い目で見て、全体のことを考えて進めていくことも必要ではないかと思っています。

今回は具体的な議論に加わり、大変勉強になりました。これからも、地域のことを一生懸命考えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(委員) 昨年末のワークショップからもう1年です。

私は前回の総合計画審議会にも、本当に充て職のような形で委員として参加しましたが、その時の思い出が二つあります。

一つは、余りにも議論に付いて行けなくて、審議会の最中にうたた寝をするほどだったことで、はっきり言ってそれほど退屈な状況でした。

今回はうたた寝どころか、かっと目を見開いて話をしないと議事が進まない状況で、随分と活性化された審議会だったように思います。

もう一つは、「スカルポリス」、つまり「学園都市」のことです。

これは、山口大学医学部長や山口大学の学長を務められ、当時は宇部短大学長であった粟屋和彦先生が、今のフロンティア大学を作る伏線として、当時の「テクノポリス」に引っ掛けて使われた言葉です。

しかし、当時はこの話は全く無視されました。それが今回の計画には盛り込まれたということで、時代の流れを感じます。そういう意味では新しい展望が開けたと大変期待しています。

次回の総合計画の策定の時には、我々の大部分はもういないと思います。ぜひしっかりとした実行計画を作って、次につなげていただきたいと思います。

(委員) 公募の小論文のテーマが、「宇部市への提言」でした。宇部市がすごく赤字で市民一人当たり何十万円という借金を抱えていると聞いていましたので、財政の再建のために市民一人ひとりがもっと自覚と責任を持って頑張らなければいけないという内容を書きました。

答申書を書くということもよく分からないまま、市民レベルの目線でずっと参加してきました。皆さんの見識が高いので、少し付いて行けないところも正直ありました。

昨年、男女共同参画センター・フォーユーで人材育成講座が催された際に、藤田前市長の講義もあったのですが、その時に、市民に意見を言う人はたくさんいるが、本当は実働してくれる人がほしいのだというお話をされていたのが非常に印象に残っています。

私も、今、視覚障害者のために宇部市広報の音声訳をテープに吹き込むボランティア、老人介護施設での朗読ボランティア、「花と緑を育て隊」という公園緑地課関係のボランティア、年に2回の彫刻清掃のボランティアなどに参加しています。

これからも、自分が体を動かして参加できる活動を続けていきたいと思います。長い間お世話になりました。

(委員) 宇部に対していろいろな思いがあります。

結婚して25年前に大阪から宇部に来ました。そのときに、残念ですが、「住みにくい」という印象を持ちました。その後、夫の転勤で7年半宇部を離れて戻ってみると、更に寂しくなっていてとても残念でした。それで、少しでも住みやすいまちになってほしいと思い、今回参加しました。

最初に宇部に来たときに、なんて買物がしにくいのだろうと思いました。女性は買物をするときには、お店を全部見て回ってから品物を選びたいものなのですが、宇部新川駅と銀天街、井筒屋、エムラと全部がぼつんぼつんと離れていたのです。

宇部に戻ってみると、銀天街がシャッター街になっていて、最近エムラもお店を閉じることになり、ああやっぱりという思いがします。市のまちづくりをするに当たり、なぜばらばらに作ったのだろうと思います。

大阪の実家の場合、駅に行けば全て用事が済みます。JRの駅を中心に、駅ビルに大きなスーパーが入り、駅前から商店街が続き、カルチャーセンターが入っているビルもあり、図書館の支所もあり、市役所の支所もあり、銀行もあって、駅に行けば、本も借りられるし、市の手続もできるし、何もかもそこで済ませられるという便利な環境でした。

宇部に来たときにそれができない、車でまちに出てきても、車を一箇所に止めて全部を回するには少し広がり過ぎている、車をそれぞれに止めようとする止めにくいといったように、いろいろと不便を感じました。

私は、これからは宇部を離れる予定は無く、宇部に骨をうずめることになると思います。できるだけ住みやすい宇部になってもらいたいと思います。基本構想

を実行計画に移していくに当たっても、市民の声を聞く場や仕組みがあればいいなと思っています。

この会に参加する中で、宇部を見つめなおす機会を得たことを感謝しています。山もあり、海もあり、自然環境には恵まれています。常盤公園は素敵な公園です。医学部、工学部、フロンティア大学など、高等教育機関もこれだけ集まっています。元気になる資源はたくさんあると思います。そのことをこの会に参加することによって再認識できました。それがまだまだ活用されていないと思います。

貴重な経験をさせていただいたことを感謝します。

(会 長) 傍聴していた市の新総合計画策定本部専門部会の皆さんも一言お願いします。

(専門部会) 先ほど、市民目線の話があり、市民の参加がまだまだ少ないという意見もありました。行政としては、市民目線、更にはそれよりも低い目線に立ち、市民の意見がどんどん出てくるように努めたいと思います。

(専門部会) サブタイトル「会ってみたい未来の宇部に」が示す 12 年後の宇部市が元気になっているためには、何人かの委員から御指摘がありましたように、現在策定中の実行計画がその成否を握っているのではないかと思います。現在その取りまとめ作業をしていますが、答申案に込められた皆様の思いを十分考えながら、取りまとめたいと思います。

(専門部会) 委員の皆様は、それぞれの仕事や立場をこなしながら、その上で宇部市の将来を考え、貴重な意見をいただいたと思います。これから、私たちは実行計画を立派なものに仕上げ、4 年間で少しでも皆様の思いを形にしていきたいと思います。

残念ですが、12 年後には私も 70 歳になります。その時に自分の子供や孫が、本当に宇部に住んでよかったと思えるようなまちになるように努力したいと思います。

(専門部会) 最初のうちは、皆様の個性あふれる御意見を楽しく拝聴していましたが、だんだん終わりになるにつれ、実行計画の策定のことを考えますと、なかなか難しい面があると思っています。

皆様の意見を反映した実行計画になるかどうかは、私が計画員に皆様の思いをどれだけ伝えていけるかにかかっているように思います。引き続き応援団としてよろしくお願いします。

(専門部会) 貴重な御意見、御提言をありがとうございます。「実行計画、頑張り」というお言葉がありましたが、答申書をよく読み、じっくりかみ締めて、宇部市のまちづくりに頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

(会 長) それでは、副会長からもお願いします。

(委員) 2点と+のお話をしたいと思います。

1点目は、審議会の議論の中で、言葉に対して非常に厳密な姿勢で考えを述べられる委員がおられたことです。言葉の厳密さ、表現にこだわることの大切さを再認識しました。

2点目は、工学部にいる立場からのお話です。

過去5年間の工学部の学生の就職状況を調べました。工学部は定員が530人ですが、毎年6割が大学院に進み、大学と大学院併せて毎年約550人の就職があります。そのうち山口県内が30~40人で1割にも満たない状況です。地元宇部近郊ですと、4~5人と1%以下です。

就職先としては、宇部興産、宇部マテリアルズ、宇部市役所辺りが御三家になるわけですが、もっともっと地元就職を進めなくてはいけないと思います。

最近縁あっていろいろと企業を訪問する機会があったのですが、地元や県内にはいい企業がたくさんあります。そのことを我々がきちんと学生に伝え、企業にもいろいろ努力をしていただき、優秀な学生から地元就職するようなルートを作らなければいけないと最近痛切に思っています。

先ほど医工連携の話が出ていましたが、以前から前川医学部長ともこの件についてお話をしていて、1か月に1回ざっくばらんに話をする会も設けています。いろいろと話をする中で、研究の種、事業の種がものすごくたくさんあるという気がしています。松崎委員が学長になられ、医工連携にも力を入れていただけるのではないかと期待しています。医工連携を中心に、地元で新しい企業を起こせるような体制を、工学部に在る者として考えていきたいと考えています。

+の話としては余談になりますが、市役所の建て替えについてです。

市役所は大変古く、地盤も悪いのです。地震が起きたらどうなるのかということ、私はいろいろなところで言っているのですが、いつも言われるのが「お金が無い。」ということです。

市役所に働く人のための市役所と考えるから遠慮されるのだと思いますが、ちょっと違った観点から、「市民が集まる市役所」「宇部市の中心」「あそこに行けば何もかも片付く。」「あそこに行くといい。」という市役所のイメージがあってもいいと思います。

今、地震があれば、一番先に逃げなければいけないのは市役所だと思いますが、「市役所に行けばまず安心」「何があってもあそこに行けば大丈夫」という機能を持った市役所を考えていかななくてはならないのではないかと思います。

(会長) それでは、私からも一言お話しします。

「会ってみたい12年後の宇部に」とサブタイトルにあったとおり、12年後に会えるように、私も健康には留意したいと思います。

今までも何度か述べましたが、宇部のまちは何か仕掛けさえうまくやれば、これほど市民の協力体制が強いところは無いと思います。自分からは言い出さず、任せきりのところはありますが、いいことをきちっとやっていけば、間違いなく

付いてきます。モンロー主義につながるのかもしれませんが、宇部市の市民の特色だと思えます。

商工会議所にいるとつくづくと感じます。祭りでも、先頭を切って進めれば、決してはしごを外すことなく、どんどんおみこしを担いでくれます。

このような市民に応えるためにはどうしたらよいか、その仕掛け、仕組みを我々も考えますが、市役所にも考えていただきたいと思えます。

また、審議会の議事録はよくまとめられおり、貴重な資料だと思えます。私も時々読むのですが、皆さんもいろいろな市民にも見せていただきたいと思えます。

例えば、医学部には毎日4,000人が集まり、その購買力を放っておく手はないという話に、私は強烈な印象が残っています。今、いろいろなところで、医学部周辺に商店街を作ったらという話をしています。本当にいいヒントをいただいたと思っています。

そのほかの意見も、それに近いことが多々ありました。それらは議事録に掲載されていますので、時折見ていただければと思えます。

次に、実行計画に関連して、「未来の宇部100プロジェクト(仮称)」というものを立ち上げたいと考えて、動いています。実際にどのような組織で実施していくのかはこれからの検討課題なのですが、かなりの人に賛同をいただいています。100というのは100周年に引っ掛けて、100のプロジェクトを立ち上げて後輩に託すというものです。

後輩に何か歴史的なものを残すのは我々の使命ではないかと思えます。折よく新総合計画がありますので、プランを立てて実行案をひとつひとつ確実に精査し、可能なものから実行に移したいと思えます。少なくとも、そのように100のプロジェクトをきちんと検討したということ、将来若い人に残すのは非常に大切だと思えます。

その節には、皆さんにも検討をお願いすることもあると思えますので、よろしくをお願いします。

皆さんお忙しい中集まっただき、素晴らしい答申書ができました。これを市長に届け、このまま修正することなく議会に通していただくようにすることが正副会長の役割だと思えますので頑張りたいと思えます。

事務局には大変お世話になりました。事務局がしっかりしていたので、会長としてもやりやすく、皆さんの協力も得やすかったと思えます。

以上で本日の全ての議事を終わり、後は事務局にお渡しします。

(事務局) 先ほどからのお話にあるように、まだいろいろな課題があるようです。個人的には、できれば、もう一年審議会が続けられたらと思えますが、残念ながら、その時間はありません。

また、実行計画の策定においても、市民の声を聞く場を設けてほしいという意見をいただきました。これについては、今、民間からの提案もいただけるというお話もありましたし、市長も、マニフェストの中で市民のいろいろな意見を聞きたいと言っています。実行計画をまとめてからも、皆様が意見を言える場はあり

ますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局を代表し、一言お礼のごあいさつをします。

昨年の8月から1年2か月にわたって、光井会長さんをはじめ、委員の皆様には本当に熱心に御審議をいただき、素晴らしい答申書をまとめていただきました。

今後、答申書に盛り込まれました趣旨を十分生かしながら、新総合計画基本構想を12月市議会定例会に提案したいと考えております。

事務局として至らない点多々あったと思いますが、皆様には大変お世話になりました。心から感謝します。

今後、宇部市が、「環境」に恵まれ、市民一人ひとりが「安心」して「健康」に暮らせ、「市民力」を発揮し、「地域ブランド」に磨きをかけ、発展できますように皆様の御支援・御協力をお願いするとともに、皆様の益々の御発展を祈念して、お礼のごあいさつとします。大変ありがとうございました。

(事務局) それでは、以上を持ちまして、宇部市総合計画審議会の審議のすべてを終了します。

なお、審議会の解散については、後日正副会長により答申が行われるその時点をもって解散とします。委員の皆様、1年2か月の間大変お疲れさまでした。